

平成24年度 教育行政評価シート（自己評価）NO.4

主要事業名	鹿嶋市の歴史・文化・伝統の普及と発信	作成日	H25.5.20	
		担当	部名	教育委員会・市民協働部
			課名	教育総務課・生涯学習課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	3	郷土理解教育と国際理解教育の推進
体系項目	(1)	郷土理解教育の推進
個別施策	①・②	①地域資源や地域人材の活用②伝統文化の保護と継承

2 事業概要 (Plan)

目的	事業を実施する目標を記入してください。
	文化財や伝統文化の周知を通じて、郷土理解と郷土愛、郷土への誇りを醸成することを目的とする。

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。
	・市報、FMかしま、ホームページを活用した情報発信の基礎づくり
	・魅力あるイベントの開催
	・鹿嶋語り部の会による小学校での出前講座の実施 ・史跡めぐりをし、歴史にふれ、知識を身につける

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。		
	対象	市民	規模

予算科目コード		会計	01	款	10	項	05	目	01	事業名	文化事業						
		全体計画									23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
											(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	
投入コスト	事業経費	報償費									50	50	75	75	75	75	
		消耗品費											3	3	3	3	
		ミニ博物館委託料									9,082	6,027	6,106	6,106	6,106	6,106	
		展示營業務委託料											467	467	467	467	
		合計									9,132	6,077	6,651	6,651	6,651	6,651	
	財源内訳	国県支出金									9,082						
		地方債															
		その他(参加者負担金)															
		一般財源								50	6,077	6,651	6,651	6,651	6,651	6,651	
従事職員数		正規職員								2	2	2	2	2	2	2	
		その他職員								6	4	4	4	4	4	4	

根拠法令	
------	--

事業の性質	法定受託事務		自治事務(義務)	○	自治事務(任意)	○	市民サービス		管理経費
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定		建設事業		その他
							年度から		年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。
	新しいコミュニティづくりとして伝統芸能の復活等、地域のきずなづくりが進められている。鹿嶋市基本計画においても「地域の伝統芸能や民俗行事の伝承や掘り起こしに努め、市民の郷土芸能に対する理解を深めると共に、文化遺産を後世に伝える後継者の育成に努める。」とあり、文化・芸術に対する理解と関心を深めるとともに、郷土愛の高揚を図る。

3 具体的施策評価

鹿嶋市の歴史、文化、伝統の普及と発信

「(アウトプット)評価」、「施策の有効性評価」及び「工夫・改善取組評価」は、以下の3段階評価を行う。A:予定以上の成果, B:予定通りの成果, C:当初予定を下回る成果

具体的施策名	達成目標	インプット	アウトプット	アウトカム	執行工夫・日常業務改善の取り	個別事業実績評価
	数値目標	必要性	執行段階の効率性	有効性	組み	
①はまなす郷土資料館、ときどきセンターでの企画展の実施 【比率： 20%】	はまなす郷土資料館、ときどきセンター入場者数の前年度比10%増	市内に博物館等の学習施設・社会教育施設がないことから代替の施設として必要。	鹿嶋を訪れる観光客ばかりでなく、市民への啓発活動として鹿嶋の歴史文化の継承・周知等、企画展示等を通して実施。 [目標達成度] 企画展「鹿嶋信仰」実施 上記の移動展実施(大野ふれあいセンター、勤労文化会館)	観光ばかりでなく、歴史文化や伝統を大切にする鹿嶋をアピール、市民への啓発活動として企画展示等は有効である。	鹿嶋の歴史文化をわかり易く展示。歴史講演会や展示説明を通して市民の歴史文化への関心を高めている。	個別事業実績評価点： 14 [課題] 市民への啓発活動として歴史文化の継承事業・企画展示等を実施したが、交通の便が悪い事、宣伝活動の効果がなく予想より参加者も少ない。
②民話、郷土かるたの普及 【比率： 30%】	幼稚園や学校での出前講座回数の前年度比同数	社会の変化や価値観の多様化などから地域の文化の継承が困難になっているものがある。地域の歴史や文化を伝える必要がある。	語り部の普及活動は、43回開催され、多くの子もたちが方言による鹿嶋の民話を聞き、郷土の民話や方言にふれる機会を得た。 [目標達成度] 学校や幼稚園などで56回の普及活動を行った。	郷土の民話が子どもたちにも少しずつ伝承されてきている。また、温かみのある方言での語りも郷土を理解する上で大切であり。愛着がわく。	学校以外でも、かしままつりや県内でのイベント会場でも民話の語りを開催し、一般市民への普及活動も行っている。	個別事業実績評価点： 27 [課題] 語り部の後継者の育成
③ミニ博物館(ココシカ)の運営 【比率： 20%】	ミニ博物館の運営とテーマ別のイベントの開催	鹿嶋を訪れる観光客ばかりでなく市民への啓発活動として鹿嶋の歴史文化の企画展示等を実施する必要がある。	観光客ばかりでなく、市民への啓発活動として歴史文化の継承事業・企画展示等を実施した。施設のイメージも定着して予想より入館者も多い。 [目標達成度] 企画展「塚原ト伝」、「鹿嶋のまつり」実施	鹿嶋神宮の参道という利便性もあり、効果は高い。展示がマンネリ化にならないよう市民の関心の持てるような歴史文化の企画展示等を実施する必要がある。	TV放映された塚原ト伝を中心にした展示を企画。観光客ばかりでなく市民の関心度も高かった。	個別事業実績評価点： 20 [課題] 鹿嶋の歴史や伝統文化の祭り等を展示、市民への啓発活動、観光客への周知として宣伝活動の効果があり、予想より入館者も多い。
④鹿嶋の歴史探検隊 【比率： 30%】	歴史探検隊事業の6回実施	市民が鹿嶋市を理解し、愛着が持てるよう、郷土の歴史や文化を学び、次代に継承していく必要がある。	小学4、5、6年生19名が隊員として参加した。市内の史跡等を巡り、歴史について調べたり話を聞くなどして、全6回の事業を終了した。 [目標達成度] 6回の事業実施で郷土についての知識を学ぶ。	鹿嶋市には、鹿嶋神宮や塚原ト伝の墓など数多くの文化財や歴史的文化遺産がある。その歴史や文化を学ぶことで、改めて鹿嶋を理解することができる。	4年生から6年生の異年齢の構成のため、資料の文字や言葉を工夫し、わかりやすい資料づくり、説明を心がけた。 徒歩での移動も多いため、安全に留意し実施した。	個別事業実績評価点： 25 [課題] 安全の確保

4 自己評価結果(Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、アウトプット(3割)・アウトカム(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.7,C=0.5)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。	合計点数	86	A:合計点が80点以上 B:合計点が80点未満~65点以上 C:合計点が65点未満	総合評価結果	A
本評価に基づく事業の改善点	実績	社会情勢や財政、他市での取組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 各幼稚園や保育園、小学校等へ配布した民話集を活用し、民話の普及活動の推進に努め、今年は43回の普及活動を実施した。郷土の歴史を理解してもらうため、小学生中学年から高学年を対象に鹿嶋神宮や塚原ト伝など地域の文化や偉人について学び、郷土愛の育成を図る。ミニ博物館やときどきセンターでは鹿嶋の歴史に関する展示や伝統文化財(祭)の展示を行ってきた。				
	継続・休止の理由	継続	理由	鹿嶋市基本計画においても、「地域の伝統芸能や民俗行事の伝承や掘り起こしに努め、市民の郷土芸能に対する理解を深めると共に、文化遺産を後世に伝える後継者の育成に努める。」とあり、今後も継続的な実施が必要である。		
	課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 語り部の会の協力を得て普及活動に努めているが、今後、語り部の後継者育成が課題である。				
	改善策	課題に対する改善策を、期限や具体的な数値などを記入してください。 語り部の会の活動の周知を行うと共に、語り部の養成講座等の開設も検討していく必要がある。				

平成24年度 教育行政評価シート（自己評価）NO.5

主要事業名	英語教育の充実	作成日	H25.5.20
		担当部名	教育委員会
		担当課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	3	郷土理解教育と国際理解教育の推進
体系項目	(2)	国際理解教育の推進
個別施策	①	小中学校での英語教育の充実

2 事業概要（Plan）

目的	事業を実施する目標を記入してください。
	英語を母国語とする英語指導助手を各小中学校に配置し、日常生活で自ら進んで英語表現ができることを目標として、小学校1年生及び2年生は英語に親しむことを重点に、小学校3年生及び4年生は、英語表現に慣れることを重点に、小学校5年生及び6年生は、英語による基本的なコミュニケーション能力を身につけることを重点にしている。中学生は、小学校で慣れ親しんだ会話中心の英語教育から、ライティング力やリーディング力を含む総合的な英語力向上に努める。

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。
	・小学校英語活動と中学校英語科との円滑な連携
	・市内中学校「コミュニケーション英語」カリキュラムの実施 ・教員の指導力向上

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。	
	対象	小学生及び中学生
	規模	5,149人

予算科目コード	会計	01	款	10	項	01	目	04	事業名				
									英語指導事業経費				
		全体計画		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度				
				(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)				
投入コスト	事業経費	指導業務委託（小学校）		63,434	63,224	63,224	63,224	63,224	63,224				
		うち人件費		47,573	47,553	47,553	47,553	47,553	47,553				
		諸経費		5,469	5,089	5,089	5,089	5,089	5,089				
		運営費		9,652	10,036	10,036	10,036	10,036	10,036				
		研修費		740	546	546	546	546	546				
		英語IT業務委託（小学校）		15,606	15,506	15,506	15,506	15,506	15,506				
		指導助手委託（中学校）		21,388	21,325	21,325	21,325	21,325	21,325				
		合計		100,428	100,055	100,055	100,055	100,055	100,055				
財源内訳	国県支出金												
	地方債												
	その他(参加者負担金)												
	一般財源		100,428	100,055	100,055	100,055	100,055	100,055					
従事職員数	正規職員		2	2	2	2	2						
	その他職員												

根拠法令	
------	--

事業の性質	法定受託事務	自治事務（義務）	○	自治事務（任意）		市民サービス		管理経費
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定	年度から	○	その他
								年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。
	<p>社会や経済のグローバル化が急速に進展する中、英語力の向上は教育界のみならず産業界など様々な分野に共通する喫緊かつ重要な課題である。現在、中学校・高等学校では、「国際的に通用する実践的コミュニケーション能力」を身に付ける教育が行われており、今年度からは高等学校においてオールイングリッシュの指導が行われている。市において実践しているこの6年間の英語活動の時間及びコミュニケーション英語の時間は、国際的に通用する基礎的な実践的コミュニケーション能力の意図的な育成の場となっているものである。</p> <p>また、指導にあたっては、学習指導要領においてネイティブ・スピーカーの活用に取り組むことが明記されており、今では多くの自治体で英語指導助手による英語教育を取り入れ、世界で通用する聞く力・話す力の育成が求められている。</p>

3 具体的施策評価

英語教育の充実

「(アウトプット)評価」, 「施策の有効性評価」及び「工夫・改善取組評価」は、以下の3段階評価を行う。A:予定以上の成果, B:予定通りの成果, C:当初予定を下回る成果

具体的施策名	達成目標 数値目標	インプット 必要性	アウトプット 執行段階の効率性	アウトカム 有効性	執行工夫・日常業務改善の取り 組み	個別事業実績評価
①英語指導事業の推進 【比率: 25%】	英語によるコミュニケーション能力の素地を育成し、英語を話すことは楽しいと感じる児童が80%を目指す(小学校) 英語による基礎的なコミュニケーション能力を育成し、70%の生徒に英検3級程度の力を身に付けることを目指す(中学校)	効率よく効果的な指導を行うためには、精査されたカリキュラムによる指導が重要である。	市独自のカリキュラムによる指導内容の確実な実施。 ・小学校1・2年生20時間3~6年生35時間 ・中学校1~3年生35時間 【目標達成度】 計画通り完全実施 評価: A	英語を話すことは楽しいと感じる児童の割合 81% 英検3級程度の力(サンプル調査) 46% 評価: B	各学校の英語教育担当者との連携を密にするとともに、目指す目標の共有化に努めた。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 22 [課題] 中学校英語教育における指導の改善
②市内全小・中学校に外国人講師の派遣配置 【比率: 25%】	ネイティブとの会話経験を積み重ねることにより、臆さずに英語を話したり聞いたりできる基礎的な実践的コミュニケーション能力を育成する。	臆さずに英語を使い実践的なコミュニケーション能力の基礎を育成するためには、異文化であるネイティブの指導が不可欠である。	市内全小・中学校への外国人講師の配置 【目標達成度】 計画通り全校配置 評価: A	もっと英語を話せるようになりたいと感じている児童の割合92% 茨城県インタラクティブフォーラム鹿行地区大会における入賞率は5市のうちトップ(入賞者8名のうち3名が鹿嶋市内中学校の生徒) 評価: A	子どもたちにネイティブと英語でコミュニケーションをとる楽しさをより感じさせるため、日常的に子どもたちと触れ合うよう外国人講師に助言した。 工夫・改善取組評価: B	個別事業実績評価点: 23 [課題] 外国人講師の指導力向上
③中学生海外派遣交流事業の実施(派遣・受入) 【比率: 20%】	相互交流(ホームステイ等)をとおり、広い視野と国際感覚を持った人材を育成する。 【受入】平成25年7月14日(土)~17日(火) 【派遣】平成25年11月30日(金)~12月3日(月)	海外の人間と接したり、生活を共にすることは、自国の文化等を再認識することに繋がることにも、生徒達の国際社会への意識向上に繋がる点でも重要である。	西帰浦市・鹿嶋市両中学生 各20名参加(申込み人数28名) 【目標達成度】 予定人数どりの実施 評価: B	日本語以外を話す環境を経験したことにより、英語の重要性を認識し、英語学習に対する意識向上が見られる。 評価: A	事前研修会において、参加する目標や目的を一人ずつ明確にさせ、それを基に、成果としてのレポートを作成させ、意識向上に努めた。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 18 [課題] 韓国以外の交流先の検討
④学校訪問と校内研修の推進 【比率: 10%】	訪問指導と校内研修の推進により教師の指導力向上を図る。	実際に授業の様子を把握し、授業改善に向けた指導を行うことや、課題について校内研修を行うことは教師の指導力向上を目指すためには不可欠である。	【小学校】各校年間2回の訪問指導、長期休業中における校内研修の実施【中学校】各校年間7回の訪問指導、教科会における校内研修の実施 【目標達成度】 計画通り訪問指導は全校実施 校内研修に関しては学校による研修内容の質の差が生じている。 評価: B	【小学校】たしかめ問題の正答率は平均85%を超える。 【中学校】学力診断テストの生徒率は昨年度よりは向上しているが県平均には満たない。教師による自主研修会が実施され、研修意欲の向上が図られた。 評価: B	指導を受けたい点や課題等を明確にして教師に授業を公開させ、必要かつ的確な指導が受けられるようにした。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 7.9 [課題] 中学校における教師の指導力向上につなげる訪問指導及び校内研修の工夫・改善
⑤教員研修会 【比率: 10%】	指導力向上のための教員研修や英語教育推進協議会を計画的に実施し、教師の指導力向上を図る。	指導力向上に特化した研修を受けることや英語教育の質の向上を図るための協議会を行うことは、教師の指導力向上において重要である。	英語教育推進協議会、英語指導力向上研修会、コミュニケーション英語推進協議会、英語教育研究会 合計12回の研修会の実施 【目標達成度】 計画通り実施 評価: A	【小学校】たしかめ問題の正答率は平均85%を超える。 【中学校】学力診断テストの正答率は昨年度よりは向上しているが県平均には満たない。教師による自主研修会が実施され、研修意欲の向上が図られた。 評価: B	教員研修会を計画的に実施するとともに指導力に優れた講師を招聘し、研修会の質を向上させた。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 8.8 [課題] 中学校における指導力向上に向けた研修会の工夫・改善
⑥小中学校合同研究会 【比率: 10%】	相互授業参観や合同協議会・研究会等を計画的に実施し、滑らかな小中連携を図る。	小中の滑らかな連携を図るために相互授業参観や合同研究会を行うことは系統的な指導を行う上で必要である。	英語教育研修会、合同研修会: 合計5回の実施 【目標達成度】 計画通り実施 評価: A	小学校での指導を生かした弾力的なオールイングリッシュによる指導の実施。 小学校での指導法や小学校で学んだ単語や表現を活用した英語科の指導が増加。 評価: A	小中連携に必要な資料として小中連携指導資料や小学校で扱った英単語・表現リストを作成しより円滑に接続ができるよう工夫した。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 10 [課題] 滑らかな小中連携を図るための指導改善

4 自己評価結果(Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、アウトプット(3割)・アウトカム(4割)・執行工夫・日常業務改善の取り組み(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.7,C=0.5)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。	合計点数	90	A:合計点が80点以上 B:合計点が80点未満~65点以上 C:合計点が65点未満	総合評価結果	A
本評価に基づく事業の改善点	実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 社会や経済のグローバル化に対応できる人材の育成が喫緊の課題である中、「国際的に通用する実践的コミュニケーション能力」を身に付ける英語教育は必要不可欠である。小学校における英語教育においては精査されたカリキュラムに基づく指導が各校とも同様に実施されているため、他市に比べ英語教育の質が確実に保障されており学校による差も生じていない。また、中学校においては外国人講師の効果的・有効的な活用がなされ、授業公開時には他市からの参観依頼も多い。				
	継続・休止の理由	継続	理由	今後、グローバル化に対応できる人材の育成はさらに重要であり、継続して英語教育を推進して行く必要があるため。		
	課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 「コミュニケーション英語」の指導については、外国人講師の指導力が大きく問われる。コミュニケーション英語の質や生徒一人一人の学びを保障するためには、中学校においてコミュニケーション力を高めるための指導法について工夫・改善が必要である。また、英検3級程度の力を身に付けさせるためには、書く力・読む力を含む4技能を総合的に育成することが求められる。				
	改善策	課題に対する改善策を、期限や具体的な数値などを記入してください。 話すこと・聞くことを中心とした基礎的な実践的コミュニケーション能力の育成とともに、4技能を総合的に育成することを鑑み指導の充実を図るため、現行の「コミュニケーション英語」について検討を行い、今後の指導の方向性を定め来年度からの実施に向け準備していく。				